

鶴岡工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	地域コミュニティ学	
科目基礎情報							
科目番号	0002			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 1		
開設学科	創造工学科 (情報コース)			対象学年	1		
開設期	前期			週時間数	1		
教科書/教材	必要に応じて講師が準備したプリント等を配布する						
担当教員	神田 和也,伊藤 卓朗						
到達目標							
居住地や故郷など地域の特徴を比較により認識し、違いを発信できる。また、地域の基礎データ、産業、伝統、文化などの情報を利用できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1：比較解析	地域の特徴を複数の観点から比較して理解し、違いを分かりやすい表現で説明できる。			地域の特徴を比較して理解し、違いを自分なりの表現で発信することができる。		地域の特徴について説明を受けても理解できず、情報を発信する事できない。	
評価項目2：データ利用	地域の基礎データ、産業、伝統、文化を自分で調べて考察できる。			地域の基礎データ、産業、伝統、文化を自分で調べる事ができる。		地域の基礎データ、産業、伝統、文化に関するデータを与えられても利用できない。	
学科の到達目標項目との関係							
(A)知識を統合し多面的に問題を解決する構想力を身につける。							
教育方法等							
概要	居住地や故郷など地域の基本データや産業、伝統、歴史、文化などを調べて理解する。また、比較により地域の特徴を理解し、違いを発信できるようになる。						
授業の進め方・方法	対面にて授業で行い、個人ワークやレポートなどの自学自習課題により習熟度を測る。						
注意点	教科書は用いないが、授業で使用了スライドなどの資料をできる限り共有する。						
事前・事後学習、オフィスアワー							
事前・事後学習：本科目は学修単位のため、授業1時間に対して2時間分の事前・事後学習を求める。指定された課題について取り組み、期日までにオンラインで提出すること。 オフィスアワー：授業開講日の授業開始前1時間(時間割通りであれば11:50-12:50)および事業終了後1時間(同14:20-15:20)、加えて、随時Teamsチャットにて質問や相談を受け付ける。							
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス 山形県の統計データを調べる・知る・考える		科目の内容や進め方を理解できる。 山形県の各種統計データを調べて、特徴を理解する。		
		2週	身の周りの生物・食文化などから地域季節を感じる		身の周りの変化（生物、食、ファッションなど）を通して、地域独自の季節を感受し、表現することができる。また、そうした社会的ニーズに対応するため、自分自身が心がけようとする取組みについて具体的に表現できる。		
		3週	地域の食材と食文化を知る		鶴岡市の伝統的な食材と食文化を知り、国内においても地域ごとに固有の食材や食文化がある事を理解する。		
		4週	庄内地域の伝統芸能		庄内地域の伝統芸能を通して、地域の歴史や文化を理解し、他者に伝えることができる。		
		5週	伝統芸能の比較解析		山形県全域の伝統芸能を比較し解析することができ、地域特性や居住する地域の歴史文化を他者に伝えることができる。		
		6週	地域コミュニティにおける多様性		地域コミュニティにおけるマイノリティーの存在について自分の考えをまとめ、他者に伝えることができる。		
		7週	街づくりワークショップ		本科目で学んだ地域性や多様性の感覚を踏まえて、将来住みたい街の像を描けるようになる。		
		8週	障害や多様性に対応するモノづくり		障害や多様性に対応することは、社会貢献になるだけでなく、ビジネスにもなる事を事例で学び、既存製品に対して新しい用途を考える事できるようになる。		
	2ndQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週

基礎的能力	工学基礎	技術者倫理 (知的財産、 法令順守、 持続可能性 を含む)および 技術史	技術者倫理 (知的財産、 法令順守、 持続可能性 を含む)および 技術史	国際社会における技術者としてふさわしい行動とは何かを説明できる。	2	
				過疎化、少子化など地方が抱える問題について認識し、地域社会に貢献するために科学技術が果たせる役割について説明できる。	2	
		グローバリ ゼーション ・異文化多 文化理解	グローバリ ゼーション ・異文化多 文化理解	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。	2	
				様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について説明できる。	2	
				異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。	2	
				それぞれの国や地域の経済的・社会的な発展に対して科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について説明できる。	2	
分野横断的 能力	態度・志向 性(人間力)	態度・志向 性	態度・志向 性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	2	
				自らの考えで責任を持ってものごとに取り組むことができる。	2	
				目標の実現に向けて計画ができる。	2	
				目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	2	
				日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	2	
				社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	2	
				チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	2	
				チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	2	
				当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	2	
				チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	2	
				リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	2	
				適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	2	
				リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている	2	
				法令やルールを遵守した行動をとれる。	2	
				他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	2	
				技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に負っている責任を挙げることができる。	2	
				自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。	2	
				その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かっていくために現状に必要な学習や活動を考えることができる。	2	
				キャリアの実現に向かって卒業後も継続的に学習する必要性を認識している。	2	
				これからのキャリアの中で、様々な困難があることを認識し、困難に直面したときの対処のありかた(一人で悩まない、優先すべきことを多面的に判断できるなど)を認識している。	2	
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でどのように活用・応用されるかを説明できる。	2	
				企業等における技術者・研究者等の実務を認識している。	2	
				企業人としての責任ある仕事を進めるための基本的な行動を上げることができる。	2	
				企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己の進路としての企業を判断することの重要性を認識している。	2	
				企業には社会的責任があることを認識している。	2	
				企業が国内外で他社(他者)とどのような関係性の中で活動しているか説明できる。	2	
				調査、インターンシップ、共同教育等を通して地域社会・産業界の抱える課題を説明できる。	2	
				企業活動には品質、コスト、効率、納期などの視点が重要であることを認識している。	2	
				社会人も継続的に成長していくことが求められていることを認識している。	2	
				技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要とされることを認識している。	2	
				技術者が知恵や感性、チャレンジ精神などを駆使して実践な活動を行った事例を挙げることができる。	2	
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを認識できる。	2	
				企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができる。	2	
				コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。	2	
				評価割合		
		課題		日程管理		合計
総合評価割合		80		20		100

分野横断的能力	80	20	100
---------	----	----	-----